

2021 年度(令和 3 年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番59	福山市立日吉台小学校
最終更新日	2021年(令和3年)10月26日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校・中学校共に、子どもが目標を立て、課題に取り組み、その成功体験により、自己肯定感が上がるという流れよくわかった。 中学校は、短期経営目標の自己評価結果に基づき改善策を実行してほしい。 積極的な情報発信により、中学校区の学校保護者・地域が互いに連携協力を深めてほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学び合う姿が増えてきた。 課題発見学習にチャレンジしている。 中学校における長期欠席の生徒は全体の4.6%である。(全国平均3.9%) 人間関係トラブルを、当事者同士で解決できない。周辺の一部の子ども達にも、トラブルを温存、助長する傾向がある。 中学校では、一部の生徒で、SNSのトラブルが、繰り返し起きている。 	<p>育成する力 (21世紀“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、実践力</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが主体的で、対話のある授業づくり 子どもの問いが生まれる授業づくり 子どもがワクワクする授業づくり 地域貢献活動の実施
---	---	---	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>社会の一員としての自覚を持ち、自ら「夢」に向かって挑戦する、自律した子どもを育成する。</p>	<p>育成する力 (21世紀“スキル&倫理観”)</p>	<p>課題発見力</p>	<p>論理的思考力</p>	<p>コミュニケーション能力</p>	<p>実践力</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自ら気づき、考え、判断して行動する子どもの育成</p>	<p>めざす子ども像</p>	<p>低学年</p> <p>「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。</p>	<p>事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。</p>	<p>自分の思いや考えを相手に伝えることができる。</p>	<p>自分がすることを最後までやり抜くことができる。</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分達で企画運営する異学年活動、委員会・学級活動を積極的に行おうとする姿が見られるようになった。 「自分にはよいところがある」88.4%、「学級や委員会で自分の役割を果たしている」91.7%であった。 暴言暴力によるトラブルが多い。 長期欠席児童は4名である。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業で考えることが面白い」91.1%、「自分で考えた方法で学んでいる」85.5%であり、意欲的に学び合う姿が増えてきた。 全員が一律に取り組む学習だけではなく、児童が学び方や取り組む順番など、自分で選択できる内容を単元に位置付けるようにしている。 教科横断的な学びにより、児童の興味関心を喚起しながら、資質・能力を育むような授業展開をする必要がある。 	<p>中学年</p> <p>自ら問いを見つけ、既習内容や方法で解決することができる。</p>	<p>因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。</p>	<p>自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。</p>	<p>自分がすることを考えて、目標を持って最後までやり抜くことができる。</p>	
	<p>高学年</p> <p>自ら問いを見つけ、見通しを持って調べたり、考えたりしながら、解決することができる。</p>	<p>因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。</p>	<p>多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。</p>	<p>自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながら行動することができる。</p>	
	<p>研究</p>	<p>テーマ</p> <p>学ぶ楽しさを実感しながら、主体的に学びに向かう力を育む授業づくり ～知的好奇心を高める探究的な単元づくりを通して～</p>	<p>内容等</p> <p>認知のしくみ・探究的な学び等についての理論研究、単元づくり、授業研究・協議</p>		
	<p>めざす授業の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが、「もっとやりたい」「できた」「わかった」と実感する授業 子どもの問いから広がる授業 子どもが対話したり、解決方法を自分で選択したりする授業 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立日吉台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価
4	主体的に学ぶ力の育成	★	見直し	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学ぼうとする意欲を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な展開になるような単元づくりを行う。 単元に自分のペースで取り組む時間と内容を位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「もっと学びたい」「授業が楽しい」80%以上 	<input type="checkbox"/> 「もっと学びたい」80.6% <input type="checkbox"/> 「授業が楽しい」90.5%	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 教えること、子どもが考えることを適切に位置付けるための教材研究を継続する。 興味関心の広がり、教材・内容のつながりを検討して教育課程を見直す。 				
			見直し	<ul style="list-style-type: none"> 自らの目標を決め、学び方を考えながら学力の定着を図る授業づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットドリルなど多様な方法で学習を行う。 個別の状況を把握し、必要に応じた個別の学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分で考えた方法で学んでいる」80%以上 「授業が分かる」80%以上 学期末確認テスト 国語・算数 85点以上 	<input type="checkbox"/> 「自分で考えた方法で学んでいる」84.1% <input type="checkbox"/> 「授業が分かる」91.2% <input type="checkbox"/> 1学期末テスト 国語 76.2点 算数 72.5点	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 全校で集中的に「読む」「書く」「話す」活動に取り組むとともに、授業の中にも多様な表現活動を位置付ける。 				
2	自らに自信を持つとともに、相手を思いやる心の育成	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を自覚し、課題解決に向け、協働してやり抜く力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けた係活動、委員会活動になるよう内容を見直す。 自分の役割を考えることができる多様な活動の場をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学級や委員会で自分の役割を果たしている」85%以上 「自分には良いところがある」85%以上 	<input type="checkbox"/> 「学級や委員会で自分の役割を果たしている」91.2% <input type="checkbox"/> 「自分には良いところがある」78.5%	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 係活動の意義を見直す取組をするとともに、委員会担当と児童の連携を充実させる。 行動目標を立て、その振り返りで達成状況を評価することを継続する。 				
			新規	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識を持った言動をしようとする態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が企画運営する異学年活動を行う。 児童会が主体となり、挨拶や優しい言葉遣いを呼びかける取組をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分から挨拶をしている」85%以上 「くん・さんを付けて呼んでいる」75%以上 長期欠席者前年度数以下 	<input type="checkbox"/> 「自分から挨拶をしている」83% <input type="checkbox"/> 「くん・さんを付けて呼んでいる」78% <input type="checkbox"/> 長期欠席者前年度数比+1人(昨年度、同時期1人)	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 休憩時間を使って月に1回以上異学年遊びを行う。 毎月第1週目を「くん・さん週間」として言葉遣いを意識させる。 高学年と児童会を中心に児童発のあいさつ運動を行う。 				

4	自らの生活を律するたくましい心と体の育成	継続	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことの楽しさに気づき、自ら体力づくりに取り組む態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会や学級、学年でスポーツ活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「体を動かすことは楽しい」80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □「体を動かすのは楽しい」90.8% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 元気委員会による遊び道具の貸し出しや、レク(月に1回以上)を行う。 ペア学年だけではなく、様々な学年と交流できる遊びを企画する。 				
		継続	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣を自分でマネジメントしようとする態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携し、自身の生活習慣を振り返り、自己目標を立てて取り組むアウトメディア週間を学期毎に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分で早寝・早起き・テレビの視聴時間管理に取り組んでいる」80%以上 「毎日朝ごはんを食べている」95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □「起きる時刻寝る時刻を決めて守っている」77.0% □「メディア使用の時間を決めて守っている」74.6% □「毎日朝ごはんを食べている」95.1% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> アウトメディアチャレンジ週間の前後に家での過ごし方を書き出し、自らの生活習慣を知ることによって改善策を考えさせる。 朝ご飯のレシピを募集し、紹介する。 固定化している児童については保護者と連携する。 				
3	教職員がやりがいと充実感を持ち、元気に働くことができる環境づくり	★ 継続	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学校運営に参画しようとする意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自が校務分掌上の課題を見つけ、改善策を提案する。 事前に課題と方向性を確認し、担当者に方法を任せる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「仕事に意義とやりがいを感じている」教員95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □「仕事に意義とやりがいを感じている」教員93.3% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 各推進部で、全体的な課題、改善の方向性、取組内容の検討、担当者による企画立案というサイクルを徹底する。 取組の進捗状況、成果等を児童の振り返り等で共有する。 				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。